

「海洋学科運動」の経緯

- ① 古仁屋高校の行政に関する実態調査（2015年2月）
 - 元・本部同窓会会長と懇談
 - 瀬戸内教育委員会、瀬戸内企画課と懇談
- ② 関東古高会役員会で今後の母校の存続問題について討議（2015年4月～7月）
- ◎将来性がある発展的な学科に着目し、討議する。
 - 海に囲まれた環境を最大限に活用、地場産業に直結する学科。
 - 奄美全域、本土からも入学者募集可能にし、パイの大きい学科である事。
(奄美諸島には海洋学科は現在ゼロ)
- ③ 平成27年10月初旬、地元本部同窓会会長、九州古高会会長、関西古高会会長と連携、「海洋学科開設の嘆願書」に各方面同窓会代表としての署名をお願いし、同窓会連合の会としての瀬戸内町役場へ提出する。
- ④ 平成27年12月、瀬戸内町役場は鹿児島県立鹿児島水産高校(枕崎市)へ町役場スタッフを送り実態調査を実施する。(地元新聞)
- ⑤ 平成28年1月奄美大島総合戦略に古仁屋高校の「海洋学科開設」を取り入れ調査、検討に入ることを発表する。(2月地元新聞に発表)
- ⑥ 平成28年6月 奄美大島の水産業振興や人材育成を目指す「奄美大島水産業推進協議会」が開始される。(6月地元新聞に発表)
- ⑦ 平成28年アンケート調査
奄美、宇検、瀬戸内、龍郷の4町村の中学校2年生約500人に対し海洋学科に対する関心度を調査した結果、約25%の生徒が関心を持っている事がわかった。
- ⑧ 今後の課題検討(平成29年度)
 - ・瀬戸内町行政はバス等の通学手段
 - ・寄宿舎の整備
 - ・町財政等多角的方面から検討することになった。